

<b>第9回宝塚市協働のまちづくり促進委員会 会議録</b>	
開催日時	平成27年8月19日(水) 18:30～21:30
開催場所	宝塚市市役所3階 特別会議室
次 第	1 開会 2 議事録について (1) 第8回宝塚市協働のまちづくり促進委員会提出分 ア 第4回協働のマニュアル策定部会議事録 イ 第7回協働のまちづくり促進委員会議事録 ウ 第5回協働の仕組みづくり検討部会議事録 エ 第6回協働の仕組みづくり検討部会議事録 (2) 平成27年8月11日付け送付分 第5回協働のマニュアル策定部会議事録 3 議事 (1) 協働のマニュアル(案)について (2) 協働の仕組みづくり検討部会第1期まとめ(案)について 4 閉会
出席委員	久委員長、足立委員、飯室委員、塩谷委員、亀山委員、河上委員、熊澤委員、久米委員、古泉委員、古村委員、田中委員、中山委員、平山委員、溝口委員、渡邊委員、大西委員
開催形態	公開(傍聴人1)

## 1 開会

第9回宝塚市協働のまちづくり促進委員会の開会。

事務局から、本日の委員出席者数は16人、欠席者は3人であり、宝塚市協働のまちづくり促進委員会規則第5条第2項に規定する過半数の出席要件を満たしているため、会議が成立していること、及び傍聴希望者が1人であることを報告した。

会議の傍聴が認められ、傍聴希望者の入室が許可された。

## 2 議事録について

第5回協働のマニュアル策定部会議事録について委員から修正意見があり、委員会で承認が得られ、議事録(案)を修正することとなった。その他の議事録については、議事録(案)をホームページに掲載することを委員が了承した。

また、第6回協働のマニュアル策定部会議事録並びに第8回及び第9回協働のまちづくり促進委員会議事録については、事務局で議事録(案)を作成後、各委員に郵送して修正意見を取りまとめ、久会長の最終確認により確定稿とすることとなった。

### 3 議事

#### (1) 協働のマニュアル(案)について

協働のマニュアル策定作業部会の部会員から第8回宝塚市協働のまちづくり促進委員会での指摘事項等を反映させた協働のマニュアル(案)の修正内容について説明が行われ、事務局から協働のマニュアル(案)について修正等の意見が述べられ、その後、以下のとおり審議がなされた。

ア 【会長意見】作業部会と事務局から説明があった内容をベースとして、本日は一定の結論を出したいと考えている。

イ 事務局からの意見にもあったが、用語の解説を加えてほしい。言葉の意味を曖昧にしか理解できていないので、マニュアルを使って他者にうまく説明できるか心配だ。日常的に使わない言葉があるので、そのページ内に注釈を入れてほしい。例えば『実行委員会形式』とか、『市民』と『住民』の違いなどが分かりにくい。

ウ 【会長意見】今後、用語の解説を加えていくという取扱いとして、次期にどのように掲載するか検討することにしたい。

エ 【会長意見】事務局意見の中で、今回のマニュアル(案)を協働の指針の5ページの解説としたことを明らかにしたほうがよいとのことであるが、前文において部会での審議の経過にふれながら解説してはどうか。あと、第1期のまとめについては、マニュアル(案)自体を第1期のまとめとすると混乱する部分があるので、マニュアルに付ける鑑を作成して、そこにマニュアル(案)をまとめた経緯や次期に議論すべき事項などを記載し、マニュアル(案)は別添として取り扱うほうがよいと思う。

オ 事例集や用語の解説は必要だと議論したが、今期はマニュアルの本編を作成することを到達点としている。本年度中にとりあえず本編の部分だけでもマニュアルの形にしたいとの希望はあるが、事例集などは次期に議論する内容になると思う。また、今日の会議の意見でマニュアル(案)に反映できるものは反映すればよいと思うし、事務局意見で出た表現の修正には異論がなく、賛成する。

カ 【会長意見】経緯も含め、次期の委員に引き継ぐメッセージとして鑑を作成してほしい。

キ 後で提案しようと思っていたが、2年間の活動のまとめをする必要があると考えて資料を作成してきた。

ク 【会長意見】それは、各部会のまとめの前段となる全体のまとめのようなものになると思う。2年間の活動のまとめがあって、その後に各部会のまとめがあって、第1期の全体のまとめとして次期に引き継ぐことができる。

ケ 資料には、先ほど意見として出たマニュアル(案)をまとめた経緯なども記載している。

コ このマニュアル(案)では、段落、項目を示す記号が分かりにくいので、整理してほしい。また、見やすくなるように改行位置なども整理してほしい。

サ 『市民目線』という言葉も人によって捉え方が違うので、用語の解説か、適当な言替えを考えてほしい。

シ 【会長意見】先ほど議論になった『市民』と『住民』の言葉の使い方なども、整理できるのであれば、整理した方がよい。

ス マニュアル(案)では、社会福祉協議会は公共の窓口となっているが、公共に分類してよいのか。

セ 事務局意見で『計画しましょう。』と修正する提案がなされた『計画づくりに参加しましょう。』の部分は、修正すると意味が狭くなってしまうので、そのまま残しておいた方がよいと思う。

ソ 【会長意見】『計画づくりに参加しましょう。』であれば、計画の作成主体が行政だけに限られた表現になっていない。今後は、市民が作成主体となる計画に、行政が参加する機会も増えてくると思うので、『計画づくりに参加しましょう。』の表現の方が適当だと思う。

タ 表紙のタイトルの下に『〇年〇月版』と付しておけば、今後修正を加えていっても整理しやすいと思う。また、指針とマニュアルの関係性を示す図を冒頭に加えれば分かりやすいと思う。

チ 各項目のサブタイトルのような形で【】でくくった部分は、協働の指針の表現に対応するように整理している。必要がなければ編集の段階で削除しても構わないと考えている。

ツ 【会長意見】作業部会で本日の意見を反映できるか検討してほしい。

(2) 協働の仕組みづくり検討部会第1期まとめ(案)について

協働の仕組みづくり検討作業部会の部会員から、第8回宝塚市協働のまちづくり促進委員会での指摘事項等を反映させたまとめ(案)の修正内容について説明が行われ、その後、以下のとおり審議がなされた。

ア 【会長意見】内容はまだまだ議論しなければならない事項があるが、今回はまとめをどうするかについて意見してほしい。

イ 今回のまとめの内容は、部会での審議内容を項目ごとに整理してまとめたものとなり、また、附属資料のQ&Aは、作業部会で議論して作成したものが提案されていると理解してよいか。

ウ そのとおりである。

エ 次期の委員がこのまとめを読んで、さらに議論を深めてもらえばよいと思う。

オ 久会長のイラストが入っている部分に『久先生コメント』と記載されているものと、されていないものがある。整理して統一しておいたほうがよいと思う。

カ 【会長意見】ほかに意見がないようなので、この程度でまとめ(案)を確定とする。

(3) 2年間の活動のまとめについて委員から資料の説明が行われ、その後、以下のとおり審議がなされた。

ア 【会長意見】資料のタイトルを変更すれば、ほぼ2年間の活動のまとめとして使える内容だと思う。協働の仕組みづくり検討部会のまとめに関する記載について、ガイドラインのようなものの作成には至らなかった旨を加筆する必要がある。

イ 内容が重複する部分が1箇所あるので、整理する必要がある。また、職員アンケート

- ートについては、配布数、回答数の実績を掲載してほしい。さらに可能であれば、協働の指針と各部会の活動の関係を示す図があれば分かりやすいと思う。
- ウ 職員アンケートについては、前提となる基礎データとして全職員数、対象職員が占める割合、回答率なども掲載してほしい。
- エ 【事務局】職員アンケートについては、研修受講者を対象に調査を行うよう設定されたので、市立病院、学校、保育所、クリーンセンターなど現場で働く職員の数まで含めた母数と比較しても、正確な分析ができないと思う。
- オ 対象者数が少ないことを問題にする意図はない。今後、同様のアンケートを実施した際に比較する数値として把握しておきたい。
- カ 職員がマニュアルに求めるものが何かを把握したかったので、アンケートを実施した。部会で全職員の声をまとめる手間はかけられないので、研修を受講した者に限ることとした。研修受講者であれば、協働の指針に関する理解度も高いと思ったのでそうしたのだが、数を求めて実施したアンケートではない。
- キ 【会長意見】注釈で基礎データを掲載してもよいのではないか。また、協働の指針と各部会の活動の関係を示す図は誰が作成するか。
- ク 職員アンケートや研修の際のアンケートも、資料として添付するかたちでよいのではないか。確認するタイミングがないので、事務局中心にまとめてもらって構わない。修正等は今期、次期と継続して委員となる人に指摘してもらえばよい。
- ケ 【会長意見】では、事務局中心で案を作成して、私が確認するようにする。
- コ 学校関係者はまちづくり協議会と密接に関係するので、是非とも研修の実施を検討してほしい。
- サ 職員だけでなく、広く市民にも説明していく必要があると思う。そのことも2年間の活動のまとめに記載しておきたい。
- シ 会議の開催日の記載誤りがあるので、再度確認して訂正しておいてほしい。
- ス 【会長意見】本当に議論するのであれば、会議を10回以上開く必要があると、普段から述べているが、この活動のまとめを見て改めてそう思った。
- セ 次期は、最初からこのようなまとめを作成することを前提にデータを蓄積していく必要があると感じた。全体会、部会、作業部会など会議の数が増えると、どこで議論した内容だったのか記憶できない。
- (4) 上記のほか、次期に引き継ぎたい事項等について、以下のとおり審議がなされた。
- ア 公募委員は次期も継続して委員になることはできないのか。
- イ 【事務局】公募委員は広く市民の意見を聴くことを目的としているので、市の附属機関の運用方針として、継続して委員になることはできないこととしている。
- ウ 次期に検討してほしい事項として、職員の参加がある。委員として市を代表して部長2人に参加いただいているが、一般職員にも参加してほしい。委員としてのポストを用意するのに時間がかかるのであれば、部会や作業部会に参加して意見をくれる職員を募集してほしい。また、都市経営会議の下部組織として協働の取組推進検討会があるが、その活動内容がよく分からない。庁内の検討会とも連携していき

たいので、活動状況を情報提供してほしい。

エ 【会長意見】 検討会とは合同で会議を開催して、顔つなぎするのもよいかもしれない。また、職員の参加については、協働のマニュアル策定部会に参加してくれる職員を募集して、職員と一緒にマニュアルを作るのもよいと思う。

オ この委員会は市長の諮問に応じて答申する附属機関であり、協働の取組推進検討会は都市経営会議の下部組織であるので、両者の関係に誤解がないように理解しておいてほしい。

カ この委員会は、事務局案に意見を述べるだけのようにはせず、行政職員も委員として参加して市民委員と議論しており、協働を審議するのにふさわしい運営がなされている。今後もこのような運営を続けてほしい。

キ 今後、市民にもっと協働を知ってもらう必要がある。まちづくり協議会にも働きかけていかなければならない。

ク 【会長意見】 これまでの附属機関の運営と違い、事務局も事務の進め方を試行錯誤しながらよくやってくれたと思う。年度ごとに一定の区切りをつけて成果を出していくのが今までの行政の動きだが、今回のまとめにしても拙速にマニュアルの完成やガイドラインの完成を求めず、審議を次期に継続できるよう委員会の運営に配慮してくれている。

ケ SIM熊本の研修にとっても興味を持っている。市民の研修にも役立つのではないかなと思う。

コ 協働の仕組みづくり検討作業部会で、評価シートのベースになるようなものとして『こんなまち協だったらいいな』を作成したが、今後、評価制度の導入を検討していってもらいたい。また、導入に向けた留意点をまとめてみたので参考にしてほしい。

#### 4 閉会